

○小論文とは何か

小論文とは、字数指定のある論理的な文章とを考えてみます。そして、小論文で目指すものは、誰にも書けないことを、誰にでもわかるように、と定めてみます。一回目の授業では、そのために必要なものを、まとめていきましょう。

○論理とは何か

では、論理とは何を指すのでしょうか。古来より、人を動かすのは4つの要素であると考えられてきました。論理もこの中にあります。

- ・ 論理
- ・ 感情
- ・ 道徳
- ・ 権威

小論文は…  
論理で勝負！

論理は、客観性によって保たれます。客観性を得るために、例えば、文献を引用する、データを数値化したり統計処理したりする、実際に実験してみる、といったようなことがあります。そうした客観性によって主張を支えることが、論理を構築するということです。主張は主観的で良いので（むしろ主観からスタートせざるを得ない）、それをいかに客観で補強できるか、が鍵です。

小論文に必要な論理とは…  
**主観的な主張を、客観性で支えること**

○内容 —誰にも書けないことを—

確かな知識に裏打ちされている、ということが何より重要ですが、それだけでは、誰にも書けないことを、という目標を叶えにくい。確かな知識であればあるほど、誰にも同じ情報だったりするからです。これを叶えるために、もうひと工夫、しましょう。→黒板参照

納豆の例で言えば、好き、嫌いという感情だけで書いては、論理的ではありません。また、小論文の課題では「好きか嫌いか」という問が出てくることはまずないので、すこし記述を変えてみます。

- A：納豆は、ねばねばしていて体に良いから、食べるべきである。
- B：納豆は、ねばねばしていて臭いが強いから、食べるべきでない。

○反論の先取り

さらに自らの論理を強める方法があります。それが「反論の先取り」です。これは、反対側の論理やデータ、さらには想定される反論を、こちらで先に取ってつぶしてしまうということです。

A：納豆は、ねばねばして体が良いから、食べるべきである。たしかに、臭いが嫌いだという人も  
いるだろう。しかし、現在にはおいのしない（弱い）納豆も販売されている。だから、納豆は食べるべきである。

B：納豆は、ねばねばして臭いが強いから、食べるべきでない。たしかに、体に良いという意見もある  
だろう。しかし、現代ではサプリメントなどの栄養補助食品も豊富で、納豆を食べなくても栄養をとることができる。だから、納豆は食べるべきではない。

どちらの論理も、それなりに説得力を増した印象があります。しかし、これでもまだ不十分です。ここで加えた情報は相手の根拠を否定しただけです。これにさらに手を加えてみます。

A：納豆は、ねばねばして体が良いから、食べるべきである。たしかに、臭いが嫌いだという人もいるだろう。しかし、現在にはおいのしない（弱い）納豆も販売されている。しかも、納豆は大豆製品として、良質なたんぱく質を含むだけでなく、発酵食品として、薬のように体に働きかける機能性物質というものも含んでいる。このように、栄養や機能性物質を一度にとることができるから、納豆は食べるべきである。

B：納豆は、ねばねばして臭いが強いから、食べるべきでない。たしかに、体に良いという意見もあるだろう。しかし、現代ではサプリメントなどの栄養補助食品も豊富で、納豆を食べなくても栄養をとることができる。最近では臭いの弱い納豆も市販されているが、それはそもそも納豆の臭いが嫌いな人が多いから生まれた商品であり、また普通の納豆に比べて値段が割高である。このような理由から、納豆をわざわざ食べる必要はない。

このように、反論や、自分の論とは違う論理をイメージしてみることで、自分の論の穴が見えたり、それを補う材料が見つかったりします。結果として、それは対比の構造となって、文章の論理を補強してくれるものとなるのです。思えば、現代文で評論を読むときにも、対比は重要でしたよね。

○述べ方 一誰にでもわかるように一

内容には、確かな知識が必要で、しかしまた、知識があれば良いというわけでもない。これを淀みなく伝えるために、述べ方を型にはめてみましょう。手順は自由ですが、ひとまず例を挙げてみます。

I：主張+根拠【縮小版】（例：○○について、私は…だと考える。それは…と考えるからだ。）

II：反論の先取り（例：たしかに、…というような見方もあるかもしれない。）

III：根拠【拡大版】（例：しかし、…という見方もでき、さらに…といったこともある。）

IV：再度、主張（例：以上の点から、○○について、私は…である。）

こうして並べてやれば、ひとまず相手に説明したり、相手を説得したりする文章が書けると思います。これはあくまでも一例なので、自分にあったやり方でやってもらってかまいません。また、小論文は自分の論を立ててそれを表現していくものですから、反論の先取りなどに紙面を費やし過ぎないように。割合で言うなら、IIIが一番大きくなるように書いていくのが良いでしょう。これもあくまで目安ですが、I：II：III：IV＝1：3：5：1くらいでしょうか。

○練習してみよう！

文章は書く前の準備が何より大切です。その練習のためには、この段階でいろいろな新しいことを調べたりすることは難しいと考えています。よって、今回のテーマは調べなくても良いもの、身近なものとして、「受験生は家事の手伝いをすべきかどうか」にしてみます。これについて、**600字以内**で小論文を書いてみましょう。習ってきたことを踏まえて、練習です。

○構想を練る！



家事の手伝い

主張；

根拠；

反論；

( )組 ( )番 名前 ( )